Saitama Prefectural University

埼玉県大紀 2014:16:47-53　47

The Bulletin of Saitama Prefectural University　■ 研究報告 ■

在日ラオス人女性の妊娠・出産に関する文化的慣習の伝承

齋藤　恵子

Tradition of Cultural Practices on the Childbirth of Laotian Women Who Immigrated to Japan

Saito　Keiko

本研究は日本在住のラオス人女性の、母国の妊娠・出産に関する文化的慣習の実践と伝承について明らかにし、文化に配慮した看護ケアについて検討するための基礎資料とすることを目的とした。日本で妊娠・出産を経験したラオス出身女性3名を対象として、研究者が作成したインタビューガイドを用いた半構成的面接によりデータを収集し、得られたデータの逐語録を質的に分析した。その結果、「ユーファイ（火のそばで過ごす）」、「カラム（食事制限）」を行う、薬草茶を飲む等の母国の文化的慣習を実践し、実践したことに価値を見出している一方で、日本での実践に対する戸惑い、否定的な思いがあることが示唆された。文化的慣習の伝承については友人間、母娘間での伝承が語られた。以上のことから、異文化背景を持つ女性への文化を考慮した看護ケアとして、妊娠・出産に関する文化的慣習を健康への影響等を検討しつつ尊重する姿勢が求められる。

キーワード：文化、慣習、妊娠、出産、ラオス
Key words : Cultur, practice, pregnancy, child birth, Laos

1．緒　言

ICM（世界助産師連盟）によると、助産師は妊娠と出産を取り巻くさまざまな文化的伝統と慣習があることを認識したうえで、その伝統について熟知し、女性や出産を迎える家族に害とならない慣習を尊重することが求められている[1)]。我が国の外国人登録者数は、1991年末の122万人から2011年末では208万人へと、20年間で約1.7倍に増加しており[2)]、地域別にみるとアジア地域が79.6%を占めている。そのうち、15歳～49歳までの生殖年齢層の女性がアジア出身の女性外国人登録者数の73.1%を占めている。このような背景の中、在日外国人女性の日本での出産は増加しており、看護者には異文化背景を持つ女性の妊娠・出産に関する伝統的慣習を尊重し、可能な範囲で支援する姿勢が求められている。

在日外国人の日常生活や健康認識に関する研究は、フィリピン人、ブラジル人を対象に行われている[3,4)]。また、在日外国人女性の妊娠、出産および育児において、日本という異文化環境で、孤独感や疎外感、不安感を持っていることが明らかされている[5,6)]。その対応として、在日外国人女性自身の対処に焦点をあてた研究[7,8)]、大学病院の産科病棟での在日外国人妊産婦に対応する助産師の対応の実態調査[9)]、都内産婦人科病棟の助産師ケアの現状報告[10)]があるが、異文化背景を持つ女性の母国の妊娠・出産に関する文化的慣習と日本での実践と伝承に着目した研究は行われていない。

筆者らの先行研究[11)]によると、東アジア・東南アジア諸国には日本と異なる妊娠・出産にまつわる伝統的な慣習があり、看護支援にも違いがあることが明らかになっている。例えば、ラオスでは産後の過ごし方として「ユーファイ（火の側で過ごす）」と呼ばれる産後養生の慣習があり、この期間は「カラム（食事制限）」が行われる。2000年のラオス保健省の調査[12)]によると、「カラム（食事制限）」はラオスの都市部では70.8%、農村部では80.8%の女性が行っている。

1970年代中頃の政変を機に、インドシナ難民が発生してから約40年近くが経過し、現在、日本に定住

埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科
Department of Nursing, School of Health and Social Services, Saitama Prefectural University
原稿受付日：2014年10月15日

NII-Electronic Library Service

Saitama Prefectural University

するインドシナ難民のラオス人は約1,300人と少数である。本研究では在日外国人の中でも少数派であるラオス人女性に着目して、女性の母国における妊娠・出産に関する文化的慣習と日本での実践と伝承について明らかにし、多文化共生社会に必要な文化に配慮した看護ケアについて検討するための基礎資料とすることを目的とした。

2．方　法

1）対象者

研究対象者は日本に移住し、日本で妊娠期を過ごし、出産したラオス人女性3名。対象者のリクルート方法は関東で開催されたラオス人の集会、在日ラオス協会から研究参加者を紹介してもらい、口頭と書面で同意が得られた人とした。

表１　対象者の属性

	A氏	B氏	C氏
年齢	20代前半	40代後半	30代後半
来日の経緯	結婚	難民	難民
日本在住年数	4年	21年	22年
出産時の日本在住年数	4年	3年(第2子)	11年、14年
子どもの数	1	2	2
居住地域	A県	A県	B県
夫の出身地	ラオス	ラオス	ラオス
同居家族	夫・子	夫・子	夫・子

2）データ収集

調査期間は2012年11月から2013年3月。調査方法は研究者が作成したインタビューガイドを用い、半構成的面接法を行った。インタビューの中で日本語の理解が得られないときはラオス語で質問した。主な内容は（1）母国の妊娠出産に関する文化的慣習（2）日本で実施した母国の妊娠・出産に関する文化的慣習とその思い（3）母国の妊娠・出産に関する文化的慣習の伝承についてであった。インタビュー内容は対象者の許可を得てICレコーダーに録音した。インタビュー時間は各々40分程であった。

3）データ分析方法

データの分析は次の手順で行った。(1）録音したインタビュー内容を逐語録に起こし、(2）インタビューガイドに基づき質問した妊娠・出産に関する母国の文化的慣習と伝承について語っている部分を抽出し、コード化した。(3）コードの意味内容から類似性のあるものを集めてサブカテゴリーを作り、（4）サブカテゴリー同士の意味内容の類似性によってさらに抽象度の高いカテゴリーを作成した。

4）倫理的配慮

対象者に本研究の目的、方法、本研究の参加は自由意思で途中中断も可能であること、参加の拒否や途中中断による不利益はないこと、内容は研究以外では使用しないこと、個人の名前は特定されないこと、データの正確性を確保するために本人の同意を得てICレコーダーに録音し、録音内容は逐語録として記録した後は消去することを口頭及び書面で説明し、書面で同意を得た。同意書は2通作成し、研究参加者と研究者で各々一通を所持した。なお、本研究は埼玉県立大学倫理委員会の承認を得て実施した（受付番号24004号)。

3．結　果

1）対象者の属性

研究に参加したラオス出身女性は3名で、年齢は20代前半と40代後半、30代後半であった。A氏は結婚のために来日、第1子を日本に住んで4年の時期に出産、B氏は難民として21年前に来日、第2子を日本に住んで3年で出産した。C氏は難民として22年前に来日、第1子、第2子をそれぞれ日本に住んで11年、14年で出産した。居住地域はA氏とB氏はA県、C氏はB県であった（表１)。

2）ラオスの妊娠・出産に関する文化的慣習と伝承

分析の結果、以下の結果が得られた。10のカテゴリー（≪≫で示す）と33のサブカテゴリー（【　】で示す）が83のコード（〈　〉で示す）から抽出された。

（1）ラオスの妊娠出産に関する文化的慣習については４つのカテゴリーと12のサブカテゴリーが43のコードから抽出され、(2）日本で実施した母国の妊娠・出産に関する文化的慣習とその思いは４つのカテゴリーと17のサブカテゴリーが34のコードから抽出され、(3）母国の妊娠・出産に関する文化的慣習の伝承は2つのカテゴリーと4つのサブカテゴリーが6つのコードから抽出された（表2,3,4)。

（1）ラオスの妊娠・出産に関する文化的慣習

ラオスの妊娠・出産に関する文化的慣習は、①≪生まれてくる子ども・出産への影響の恐れから行う食事制限≫、②≪「ピッカム（体調が悪くなる)」にならないために産後に「カラム（食事制限)」を行う≫、③≪「ユーファイ（火のそばで過ごす)」を行う≫、④≪家族に見守られた自宅出産≫の４カテゴリーが抽出された。(表2)。

NII-Electronic Library Service

Saitama Prefectural University

表２　ラオスの妊娠・出産に関する文化的慣習

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
生まれてくる子ども・出産への影響の恐れから食行う事制限	食べたものによる子どもへの影響の恐れ	スズメバチの幼虫は食べない、食べると人を傷つける子が生まれる性格が悪くなる
		コーヒーは飲まない、コーヒーを飲むと黒い子が生まれる
	食べたものによる出産への影響の恐れ	アルコールは飲まない、アルコールを飲むと出産しにくくなる
		バナナの新芽を食べると出産できなくなる
		まだ木から出てないバナナの芽は食べてはいけない
「ピッカム（体調が悪くなる)」にならないために産後に「カラム（食事制限)」を行う	「ピッカム（体調が悪くなる)」の恐れ	ひどいものは死んでしまう時がある
		ちょっと具合が悪くなる食べ物がある
		けいれん、唇が開けられない
		生ものは食べない
	「ピッカム（体調が悪くなる)」を恐れて食事を制限する	パーディープ（魚を使ったラオス独特のソース）は使わない
		ソムパック（野菜の漬物）は食べない
		タムマックフン（パパイヤのサラダ）は食べない
		辛いもの（唐辛子）は食べない
		すっぱいもの(漬物、みかん）は食べない
		髭がある魚（なまず)、鱗のない魚は食べない
		牛肉、白い水牛（若い水牛）の肉は食べない
		硬い干したスルメは食べない
		バナナの新芽は食べない
		産後はタブーの食材は食べてはいけない
		鶏肉、焼き鳥を食べる
		卵は食べてはいけない
		足の黒い鳥は食べない
		「ユーファイ」の間は決まったものしかたべれない
		「ユーファイ」が終わってからも「ピッカム」のものは食べない
		足の黄色の鳥は食べても良い
		カオニオ（もち米）と白い魚を食べる
		パッカという野菜は子宮が炎症すると言われている
	子宮の炎症を避けるために食材を制限する	臭いの強烈なパッカは食べてはいけない
		パッカは臭いを嗅ぐだけでも具合が悪くなる
「ユーファイ（火のそばで過ごす)」を行う	一定期間火（ベッド下に炭を置く）のそばで過ごす	傷が治るまであまり動かない
		最低でも産後１週間行う
	子宮乾燥による避妊効果の期待	子宮を乾燥させ避妊効果がある
		子宮が濡れていると良くない
	身体を温めることによる母乳分泌促進効果の期待	母乳が沢山出る
		冷たい水は飲まない
	「ピッカム（体調が悪くなる)」を和らげる薬草茶を飲む	薬草茶を飲む
		90度位の熱い薬草茶を飲む
	悪露排出促進効果の期待	悪い血がたまって良くない
女性・家族に見守られた自宅出産	助産師介助の自宅出産	助産師が自宅に来てくれる
		田舎では自宅で出産することがあたりまえ
	女性に見守られた出産	女性の家族に見守られる
		男性は入れない
		母親が中心にみる

① ≪生まれてくる子ども･出産への影響の恐れから行う食事制限≫

このカテゴリーは生まれてくる子どもへの影響の恐れ、出産への影響の恐れから行う食事制限についての内容を示した。【食べたものによる子どもへの影響の恐れ】､【食べたものによる出産への影響の恐れ】という2つのサブカテゴリーから構成された。

ラオスではスズメバチの幼虫を食べる習慣があるが、妊娠中は〈スズメバチの幼虫は食べない〉、〈食べると人を傷つける子が生まれる〉、〈性格が悪くなる〉と言われている。また、〈コーヒーを飲むと黒い子が生まれる〉と言われているため、妊娠中は〈コーヒーは飲まない〉、このように、【妊娠中は子どもに影響する食材は摂取しない】食事制限が行われている。

また､〈アルコールを飲むと出産しにくくなる〉ため〈アルコールは飲まない〉、〈バナナの新芽を食べると出産できなくなる〉ため、〈まだ木から出てないバナナの芽は食べてはいけない〉と言われ､【食べたものによる出産への影響の恐れ】から、妊娠中の食事制限が行われていた。

② ≪「ピッカム（体調が悪くなる)」にならないために産後に「カラム（食事制限)」を行う≫

このカテゴリーは「ピッカム（体調が悪くなる)」にならないために産後の「カラム（食事制限)」をする内容を示した。【「ピッカム（体調が悪くなる)」の恐れ】と【「ピッカム（体調が悪くなる)」を恐れて食事を制限する】いう2つのサブサブカテゴリーから構成された。

ラオス語の「ピッカム」は〈ちょっと具合が悪くなる食べ物がある〉と語りのように産後においてタブーの食材があり、それらを口にすることで〈けいれん〉や〈唇が開けられない〉症状が出現し､〈ひどいものは死んでしまう時がある〉と語られているように【「ピッカム（体調が悪くなる)」の恐れ】から〈産後はタブーの食材は食べてはいけない〉と言い伝えられ､【「ピッカム（体調が悪くなる)」を恐れて食事を制限する】慣習がある。

具体的には､〈生ものは食べない〉､〈パーディープ（魚を使ったラオス独特のソース)は使わない〉､〈ソムパック（野菜の漬物）は食べない〉、〈タムマックフン（パパイヤのサラダ）は食べない〉、〈辛いもの（唐辛子）は食べない〉、〈すっぱいもの（漬物、みかん）は食べない〉、〈髭がある魚（なまず）鱗のない魚は食べない〉、〈牛肉、白い水牛（若い水牛）の肉は食べない〉､〈硬い干したスルメは食べない〉､〈バ

NII-Electronic Library Service

Saitama Prefectural University

ナナの新芽は食べない〉で、〈「ユーファイ」が終わってからも「ピッカム」のものは食べない〉習慣がある。

〈「ユーファイ」の間は決まったものしか食べられない〉、〈鶏肉、焼き鳥を食べる〉が、〈卵はたべてはいけない〉、〈足の黒い鳥は食べない〉が、〈足の黄色の鳥は食べても良い〉、〈カオニオ（もち米）と白い魚を食べる〉は摂取しても良い。

スープやラオス料理に多く使われる〈パッカという野菜は子宮が炎症を起こすと言われている〉ため、【子宮の炎症を避けるために食材を制限する】ことが守られている。〈パッカは臭いを嗅ぐだけでも具合が悪くなる〉女性もおり、〈臭いの強烈なパッカは食べてはいけない〉と言い伝えられている。

③ ≪「ユーファイ（火のそばで過ごす）」を行う≫

このカテゴリーはラオスの産後養生の文化的慣習である「ユーファイ（火のそばで過ごす）」についての内容が示された。【一定期間火（ベッド下に炭を置く）のそばで過ごす】、【子宮乾燥による避妊効果の期待】、【身体を温めることによる母乳分泌促進効果の期待】、【悪露排出促進効果の期待】の5つのサブカテゴリーから構成された。

産後は【一定期間火（ベッド下に炭を置く）のそばで過ごす】ことによって、〈傷が治るまであまり動かない〉産後養生の慣習がある。〈最低でも産後１週間行う〉ことで、〈子宮を乾燥させ避妊効果がある〉により、【子宮乾燥による避妊効果の期待】がもたれ、〈子宮が濡れていると良くない〉と言われている。

女性はベッドの下の炭で燻され、【身体を温めることによる母乳分泌促進効果の期待】され、〈母乳が沢山出る〉と言われている。この間、〈冷たい水は飲まない〉また、〈薬草茶を飲む〉、〈90度位の熱い薬草茶を飲む〉という【「ピッカム（体調が悪くなる）」を和らげる薬草茶を飲む】ことを行う。これにより、〈悪い血がたまって良くない〉状態から【悪露排出促進効果の期待】される。

④ ≪女性・家族に見守られた自宅出産≫

このカテゴリーは女性・家族に見守られた出産についての内容を示した。【助産師介助の自宅出産】【女性に見守られた出産】の２つのサブカテゴリーで構成された。〈田舎では自宅で出産することがあたりまえ〉で〈助産師が自宅に来てくれる〉という【助産師介助の自宅出産】が主流でお産する部屋には〈男性は入れない〉、〈女性の家族に見守られる〉、〈母親が中心にみる〉という【女性に見守られた出産】である。

（2）日本で実施した母国の妊娠・出産に関する文化的慣習とその思い

日本で実施した母国の妊娠・出産に関する文化的慣習とその思いは、①≪「ユーファイ」の肯定≫、②≪「ユーファイ」の否定≫、③≪「ピッカム」の肯定≫、④≪「ピッカム」の否定≫の4カテゴリーが抽出された（表3）。

表３　日本で実施した母国の妊娠・出産に関する文化的慣習とその思い

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
「ユーファイ」の肯定	「ユーファイ」実施の工夫	木の椅子に座ってその下に炭を置いて行った
		体を温めるためにゴムの湯たんぽを使った
		ストーブをそばに置いた
	安静に過ごす	安静に過ごす
		重いものは持たないようにした
		自分の身体に気を付ける
	自分で薬草茶を母国で入手した	ラオスから薬草茶を持ってきた
	母国家族からの「ユーファイ」の勧め	ラオスにいる家族から「ユーファイ」した方がいいと言われる
	母国家族からの薬草茶の入手の支援	ラオスから姉が薬草茶を送ってくれた
		薬草茶は母国から送ってもらった
		母親が薬草茶を用意してくれた
	薬草茶を一定期間飲んだ	２か月くらい飲みました
		薬草茶を６カ月くらい飲んだ
	薬草茶による母乳分泌促進の実感	薬草湯を飲むと母乳が出る
「ユーファイ」の否定	「ユーファイ」実施に消極的な思い	この環境じゃ無理
		ユーファイはしないです
		日本人と同じように生活した
	「ユーファイ」の必要性に対する疑問	ユーファイの意味、必要なのかと考える
「ピッカム」の肯定	「ピッカム」になると言われている食材の制限	出産後は漬物を食べない
		塩辛いものは食べない
		身体によくないものは食べない
		３か月食事制限を守った
	子宮の炎症を避けるために食材を制限する	子宮が炎症したら大変
		パッカといわれるラオスの野菜は食べない
	タブーの食材を食べた時の症状	牛肉、漬物たべちゃだめといったものを食べて頭が痛くなった
		パッカという野菜を食べたら頭が痛くなった
	タブーの食材を食べた時の対処法	薬草茶を飲んで何回もトイレに行くと改善する
	実施したことによる安心感・満足感	姉や母のアドバイスの一部を守ることができた
		ラオスに住むお姉さんが電話で教えてくれ、実施で来てよかった
「ピッカム」の否定	タブーの食品を摂取した	病院で卵が出たので食べた
		みかんやバナナも入院中に病院で食べた
		入院中は特に注意しなかった
	「ピッカム」を気にしない	退院の時も「ピッカム」という感じはなかった
		日本食に「ピッカム」になるといわれる食べ物はない
	入院中の安心感	何か（体調不良）あったらナースコールあるから大丈夫

NII-Electronic Library Service

Saitama Prefectural University

① ≪「ユーファイ」の肯定≫

このカテゴリーは「ユーファイ」を肯定し、日本で実践した工夫についての内容が語られた。【「ユーファイ」実施の工夫】、【安静に過ごす】、【自分で薬草茶を母国で入手した】、【母国家族からの「ユーファイ」の勧め】、【母国家族からの薬草茶の入手の支援】、【薬草茶を一定期間飲んだ】、【薬草茶による母乳分泌促進の実感】の７つのサブカテゴリーから構成された。

産後の一定期間を火のそばで過ごす【「ユーファイ」実施の工夫】について〈木の椅子に座ってその下に炭を置いて行った〉、〈体を温めるためにゴムの湯たんぽを使った〉、〈ストーブをそばに置いた〉と語られた。産後養生として産後は〈安静に過ごす〉、〈重いものは持たないようにした〉、〈自分の身体に気を付ける〉と語られ、【安静に過ごす】ようにした。

〈ラオスにいる家族から「ユーファイ」した方がいいと言われる〉、〈薬草茶は母国から送ってもらった〉、〈母親が薬草茶を用意してくれた〉、〈ラオスから姉が薬草茶を送ってくれた〉、〈ラオスから薬草茶を持ってきた〉という語りから産後養生の期間に【自分で薬草茶を母国で入手した】、【母国家族からの薬草茶の入手の支援】、【母国家族からの「ユーファイ」の勧め】により、〈２か月くらい飲みました〉、〈薬草湯は6か月くらい飲んだ〉【薬草茶を一定期間飲んだ】実践が語られた。薬草茶を飲むことにより、〈薬草湯を飲むと母乳が出る〉という【薬草茶による母乳分泌促進の実感】が得られた。

② ≪「ユーファイ」の否定≫

このカテゴリーは「ユーファイ」を否定し、日本で実践しなかったこと、実践に対し消極的な思いが語られた。【「ユーファイ」実施に消極的な思い】と【「ユーファイ」の必要性に対する疑問】の2つのサブカテゴリーから構成された。【「ユーファイ」実施に消極的な思い】は〈この環境じゃ無理〉、〈「ユーファイ」はしないです〉、〈日本人と同じように生活した〉と語られた。【「ユーファイ」の必要性に対する疑問】は〈「ユーファイ」の意味、必要なのかと考える〉と語られた。

③ ≪「ピッカム」の肯定≫

このカテゴリーは「ピッカム」を肯定し、「ピッカム」を恐れて食材を制限したり、対処した内容が語られた。【「ピッカム」になると言われている食材の制限】、【子宮の炎症を避けるために食材を制限する】、【タブーの食材を食べた時の症状】、【タブーの食材を食べた時の対処法】、【実施したことによる安心感・満足感】の5つのサブカテゴリーで構成された。

【「ピッカム」になると言われている食材の制限】は〈出産後は漬物を食べない〉、〈塩辛いものは食べない〉、〈身体によくないものは食べない〉、〈３か月食事制限を守った〉という語りがあった。【子宮の炎症を避けるために食材を制限する】は〈子宮が炎症したら大変〉、〈パッカといわれるラオスの野菜は食べない〉と語られた。【タブーの食材を食べた時の症状】は〈牛肉、漬物たべちゃだめといったものを食べて頭が痛くなった〉、〈パッカという野菜を食べたら頭が痛くなった〉とう症状が語られた。【タブーの食材を食べた時の対処法】は〈薬草茶を飲んで何回もトイレに行くと改善する〉と語られ、【実施したことによる安心感・満足感】として〈姉や母のアドバイスの一部を守ることができた〉、〈ラオスに住むお姉さんが電話で教えてくれ、実施で来てよかった〉と語られた。

④ ≪「ピッカム」の否定≫

このカテゴリーは「ピッカム」を否定し、日本では気にせず、タブーの食品を摂取したという内容が語られた。【タブーの食品を摂取した】、【「ピッカム」を気にしない】、【入院中の安心感】という3つのサブカテゴリーから構成された。

【タブーの食品を摂取した】は〈病院で卵が出たので食べた〉、〈みかんやバナナも入院中に病院で食べた〉、〈入院中は特に注意しなかった〉と語られた。【「ピッカム」を気にしない】は〈退院の時も「ピッカム」という感じはなかった〉、〈日本食に「ピッカム」になるといわれる食べ物はない〉と語られた。【入院中の安心感】は〈何か（体調不良）あったらナースコールあるから大丈夫〉という語りがあった。

（3）母国の妊娠・出産に関する文化的慣習の伝承

母国の妊娠・出産に関する文化的慣習の伝承は、①≪友人間での伝承≫、②≪母娘間の伝承≫の2のカテゴリーが抽出された（表4）。

表４　母国の妊娠・出産に関する文化的慣習の伝承

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
友人間での伝承	友人への「ピッカム」の対処への支援	ラオス人の友人が出産したら「ピッカム」の対処法を伝えたい ラオス人の友人が出産したら薬草茶を飲むことを教えたい
母娘間の伝承	娘への薬草茶を飲むことへの支援	娘にもやってもらいたい 娘に母乳育児に困らないので薬草茶を教えたい
	娘の要望を確認する	「ユーファイ」はやりたかったらやってあげられる
	娘への「ユーファイ」の支援	私が一緒だからやってあげられる

NII-Electronic Library Service

Saitama Prefectural University

① ≪友人間での伝承≫

このカテゴリーはラオス人女性の友人間での母国の文化的慣習の伝承についての内容を示した。【友人への「ピッカム」の対処への支援】のサブカテゴリーから成り、〈ラオス人の友人が出産したら「ピッカム」の対処法を伝えたい〉、〈ラオス人の友人が出産したら薬草茶を飲むことを教えたい〉という語りがあった。

② ≪母娘間の伝承≫

このカテゴリーは母娘間の母国の文化的慣習の伝承についての内容を示した。【娘への薬草茶を飲むことへの支援】、【娘の要望を確認する】、【娘への「ユーファイ」の支援】の３つのサブカテゴリーから構成された。

【娘への薬草茶を飲むことへの支援】は〈娘にもやってもらいたい〉、〈娘に母乳育児に困らないので薬草茶を教えたい〉の語りがあった。【娘の要望を確認する】は〈「ユーファイ」はやりたかったらやってあげる〉、【娘への「ユーファイ」の支援】は〈私が一緒だからやってあげられる〉の語りがあった。

４．考　察

1）母国の妊娠・出産に関する文化的慣習の実践と伝承

在日ラオス人女性の語る母国の妊娠・出産に関する文化的慣習は≪生まれてくる子ども・出産への影響の恐れから行う食事制限≫、≪「ピッカム（体調が悪くなる）」にならないために産後に「カラム（食事制限）」を行う≫、≪「ユーファイ（火のそばで過ごす）」を行う≫、≪家族に見守られた自宅出産≫の４つのカテゴリーが得られた。

ラオスの女性は出産後にそれぞれの自宅で「ユーファイ」といわれる伝統的な産後養生を約1週間程度行う。これは、母の身体を火で温める、あるいは燻る習慣である[13]。「ユーファイ」のように「火を使っての休養」は東南アジア一帯で行われ、儀式として重んじられてきた[14]。一定期間火の側で過ごすことによって、悪露の排泄を促し身体の回復を助長するといわれ、「ユーファイ」の期間は食事制限と薬草茶の摂取、湯浴びが行われる。その間、女性は家事を一切免れて授乳と児の世話だけを行う[15]。ラオスの都市部では70.8%、農村部では80.8%の女性が産後の食事制限を行っている。また、専門家が付き添う出産はわずか21.4%であるのに対し、親戚、知人による出産が39.3%[16]と高くなっており「スワイカン、ハックペーンカン（助け合い、慈しみ合う）」[17]という相互扶助規範を基盤とした女性や家族に見守られた出産が行われていることが語りの背景にあるといえる。

2）母国の妊娠・出産に関する文化的慣習と日本での実践と伝承と文化を考慮した看護ケア

日本で実践した母国の妊娠・出産に関する文化的慣習とその思いは≪「ユーファイ」の肯定≫、≪「ユーファイ」の否定≫、≪「ピッカム」の肯定≫、≪「ピッカム」の否定≫の4つのカテゴリーが得られ、母国の文化的慣習である「ユーファイ」と「ピッカム」の実践について肯定的と否定的の両方が語られた。肯定的な語りの背景には家族の支援や工夫により実践をしており、〈実施したことによる安心感・満足感〉の語りにより、実践したことに価値を見出していることが示唆された。また、実際に【タブーの食材を食べた時の症状】出現により動機づけとなっていると考えられる。ラオス人は生野菜や食用野草をよく摂取し、特徴的なのはパック・パー（森の野菜、野生の野菜）と呼ばれる野草や木々の若芽や若葉をよく食べる[18]。女性の語りに〈「パッカ」といわれるラオスの野菜は食べない〉とある。「パッカ」は日本名「チャオーム」と呼ばれるマメ科の植物でラオス料理のスープなどに入れて使う食材であるが、産後は母乳が出なくなるので、産後の女性は控えるべきとされている[19]。このように、伝統的な産後養生の慣習は先人たちから受け継げられた文化であると考えられる。以上のことから、文化に配慮した看護ケアとして、異文化背景を持つ女性の出産にまつわる文化的慣習を健康への影響等を検討しつつ尊重する姿勢がケアする者に求められる。

日本での母国の妊娠・出産に関する文化的慣習の伝承においては≪友人間の伝承≫と≪母娘間の伝承≫カテゴリーが抽出された。研究対象者が居住するA県、B県はかつて「難民定住促進センター」があった地域である。そのため、近隣ではラオス人家族が集住化しており、友人・知人も多く、支援を得やすい環境にあるのではないかと考える。

一方、≪「ユーファイ」の否定≫と≪「ピッカム」の否定≫のカテゴリーも抽出された。藤原[5]は日本の病院での出産体験は在日外国人女性にとって自分たちは受け入れてもらえないという孤独感・疎外感の強い体験となっていたと指摘している。在日外国人の女性たちが〈この環境じゃ無理〉や〈日本人と同じように生活した〉というかたりのように、自分たちが受け入れられていないと孤独感や疎外感を感じる環境があった場合、母国の文化的慣習の実践を阻害している可能性もあるのではないかと考える。以上のことから、異文化背景を持つ女性の出産にま

NII-Electronic Library Service

Saitama Prefectural University

つわる文化的慣習の伝承を可能な範囲で支援する姿勢が求められる。

5．結　論

1）母国の妊娠出産に関する文化的慣習について≪生まれてくる子ども・出産への影響の恐れから行う食事制限≫、≪「ピッカム（体調が悪くなる）」にならないために産後の「カラム（食事制限）」を行う≫、≪「ユーファイ（火のそばで過ごす）」を行う≫、≪女性・家族に見守られた自宅出産≫の４つのカテゴリーが抽出された。

2）日本で実施した母国の妊娠・出産に関する文化的慣習とその思いは≪「ユーファイ」の肯定≫と≪「ピッカム」の肯定≫の２つカテゴリーが抽出され、母国の妊娠・出産に関する文化的慣習を実践し、実践したことに価値を見出している一方で、≪「ユーファイ」の否定≫と≪「ピッカム」の否定≫のカテゴリーも抽出され、日本での実践に対する戸惑い、否定的な思いがあることが示唆された。

3）母国の妊娠・出産に関する文化的慣習の伝承については≪友人間での伝承≫≪母娘間での伝承≫の2つのカテゴリーが抽出された。

4）文化に配慮した看護ケアとして、異文化背景を持つ女性の出産にまつわる文化的慣習を健康への影響等を検討しつつ尊重する姿勢がケアする者に求められる。

5）異文化背景を持つ女性の出産にまつわる文化的慣習の伝承を可能な範囲で支援する姿勢が求められる。

謝　辞

本研究にご協力いただきました日本在住のラオス人の皆様に深く感謝申し上げます。なお、本研究は平成23年度埼玉県立大学奨励研究費の助成を受けて実施しました。この研究の一部は平成25年度第54回日本母性衛生学会学術集会で発表しました。

引用文献

１）ICM.所信表明「出産における伝統と文化」（2005）
http://www.nurse.or.jp/nursing/international/icm/definition/pdf/shoshin/j-14.pdf.　2013年10月21日閲覧
２）法務省.登録外国人統計表.
http://www.moj.go.jp/housei/toukei/toukei_ichiran_touroku.html.2012年10月22日閲覧
３）杉浦　絹子.育児中の在日ブラジル人女性の日本の母子保健医療に対する認識とその背景　日本の母子保健医療の課題に関する考察（第1報）.母性衛生2008;49（2）:236-244
４）吉田真奈美，春名めぐみ，大田えりか，渡辺悦子,Uayan Maria LT，村嶋幸代.在日フィリピン人母親が子育てで直面した困難と対処.母性衛生2009;50（2）:422-430
５）藤原ゆかり,堀内成子.在日外国人女性の出産　疎外感や孤独感を抱く体験.ヒューマン・ケア研究2007;8:38-50
６）梶間敦子.在日外国人母子への出産前後のサポート体制に関する一考察A県での聞き取り調査より.奈良県母性衛生学会雑誌2013;26:29-32
７）鶴岡章子.在日外国人母の妊娠、出産および育児に伴うジレンマの特徴.千葉看護学会会誌2008;14（1）:115-123
８）橋本秀美,伊藤薫,山路由実子,佐々木由香,村嶋正幸,柳沢理子.在日外国人女性の日本での妊娠・出産・育児の困難とそれを乗り越える方略.国際保健医療2012;26（4）:281-293
９）木村淑美,佐山理絵.在日外国人女性の食事に関する伝統行動への助産師の対応.日本母子看護学会誌2012;6（2）:49-57
10）藤原　ゆかり.異文化圏からの人々の出産に対する助産ケアの現状　文化を考慮したケアの実現に向けて.日本助産学会誌2006;20（1）:48-59
11）高田恵子,辻村弘美,森淑江.ラオスの助産技術 青年海外協力隊へのインタビューと報告書の分析.埼玉県立大学紀要2010;11:1-10
12）Ministry of Health. Report on National Health Survey Health Status of people in Lao P.D.R 2001:9
13）嶋沢恭子.産後養生と出産をめぐる環境　ラオス.松岡悦子,小浜正子,編.世界の出産　儀礼から先端医療まで,勉誠出版,東京2011:309-311
14）日高陵好,訳.自然出産の智慧.Judith Goldsmith. Childbirth Wisdom From the World’s Oldest Societies.日本教文社.東京.1997:102-104
15）嶋澤恭子.「タマサート」な産後養生ラオス,アジアの出産リプロダクションから見る文化と社会2009;119:54-61
16）Ministry of Health. Report on National Health Survey, Health Status of people in Lao P.D.R 2001:63-90
17）岩佐光広.ボーペンニャン,ボーキットラーイラオス低地農村部における「生きる構え」-.保健の科学2007;49(5):328-332
18）虫明悦生.第55章日々の食生活.鈴木玲子,編.ラオスを知るための66章,明石書店,東京2010:317-321
19）公益財団法人長尾自然環境財団.メコン河川域水辺の幸 インドシナ市場図鑑.
http://www.nagaofoundation.or.jp/publication/documents/mizube_1.pdf.2014年10月23日閲覧

NII-Electronic Library Service